

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	現場と連携する研究を
作成者（著者）	浅野, 美知恵
公開者	FD委員会 健康科学ジャーナル編集会(東邦大学健康科学部)
発行日	2021.03.31
ISSN	24343838
掲載情報	東邦大学健康科学ジャーナル. 4. p.1 1.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	巻頭言
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho.u.ac.jp/webopac/TD42087989

現場と連携する研究を

学校法人東邦大学健康科学部
学部長 浅野美知恵

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大によるパンデミックによる緊急事態宣言下から始まり、2021年1月には2回目の緊急事態宣言が発動され、収束の見えない状況が続いております。このような状況においても研究活動を継続しておられる皆様に心からエールを送りたいと思います。

さて、根拠に基づく実践(Evidence Based Practice、EBP)が1990年代後半になって臨床に導入されるようになりました。研究の蓄積が看護実践の基盤となり、看護学の発展をもたらしています。看護学が社会のニーズに対応しながら発展してきていることは科学研究費助成事業の細目区分からもわかります。1989年は看護学のみでしたが、10年後(1998)看護学は基礎・地域看護学と臨床看護学の2区分に、そして、30年後(2019)の「系・分野・分科・細目表等」改訂では、看護学は、基礎看護学関連、臨床看護学関連、生涯発達看護学関連、高齢者看護学および地域看護学関連の4区分となっています。なお、リハビリテーション看護学は中区分の異なるリハビリテーション科学関連に包含されました。

一方、超高齢少子社会、多死社会を迎える我国において、情報化・グローバル化も急速に発展しており、地域型医療・地域包括ケアはICT(Information and Communication Technology)の利活用および地域を超えた結びつきとともに進められる事態となっています。このような社会情勢の変化は、療養の変化をもたらす一方、人々の生活観、健康観、家族観、ケア観などの価値観をますます多様化させることが推察されます。

健康・医療に携わる専門職の活動現場も変化を余儀なくされる中、看護職には、看護の核となる看護観や看護哲学をしっかりと持っていること、現場で何が起きているかを探索する力、事実を観察し課題を明確にする力、プロセスと成果を評価する力が益々求められる時代になってきているといえるでしょう。研究者にとっては、いかに現場を支えるか、実践現場(臨床、地域、教育)との連携が課題といえるでしょう。本誌掲載の論文からその示唆を得られると思います。

本研究会誌『健康科学ジャーナル』が広く健康科学分野における教育・研究成果の公表の場として新たな知見や技術の共有と、さらなる発展への契機に寄与できれば幸いです。

なお、本誌は、定期的な発刊を目指しています。引き続き、皆さまのご協力を賜りたく宜しくお願い申し上げます。